

平成 30 年 6 月 15 日

東京都高体連女子部 五十嵐 菜美

平成 30 年度 第 72 回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会 派遣報告書

1. 日程：6 月 9 日（金）審判会議／10 日（土）11 日（日）大会
 2. 場所：神奈川県 ①カルッツかわさき ②川崎市とどろきアリーナ（10 日のみ）
 3. スケジュール・内容
- 6 月 8 日（金）1 日目 審判会議

時間	研修名および講師
17:30～	講話① 審判委員長 渡邊 整氏
17:40～	講義①「3P0 メカニクス」 古畑香子氏、竹澤 友美氏、中嶽 希美子氏
内容	
<p>まず初めに、審判委員長の渡邊 整氏より今大会は全試合 3P0 で実施することや、その中でメカニクスを理解し実践すること、そして失敗を恐れず思いっきりやることで判定力を身につけ、感性を磨くことを大切にして、3 日間過ごしてほしいとのお話をいただきました。</p> <p>次に講義①では 3P0 メカニクスについて事前に参加審判員に 3P0 をやるうえでの「悩み」や、「うまくいかないこと」をそれぞれ伝え、それに関しての回答をいただきながら、映像を使って解説するような形で進めていきました。</p> <p>古畑氏より、リードのローテーションについて、基本的にはボールサイドツウを作ることが重要であり、それに伴ってトレイルとセンターの協力も必要不可欠であるとのこと、ただし、ゾーンディフェンスの時は展開を考えながらポジションを変えていくことが、逆サイドに振られることは避けられる。それから、センターは重要な役割であり、1 つ前の段階で 1 歩、または半歩でも動いて、体の向きでポジションをアジャストすることが大切であり、少しの動きがアングルを捉えることができる非常に重要な点であると感じました。</p> <p>竹澤氏より、主に 3P0 でのショットクロックやゲームクロックなどの管理などのお話をいただき、時間的感覚をどのレフリーも持つこと、またチームがどのような攻め方をしているのかも考えることが大切であると感じました。</p> <p>そして最後に中嶽氏より、3P0 のシステムを信頼し、クルーで決めた約束事を徹底する。それを 1 試合やり通すことが必要であるとお話いただき、どんなゲームでもクルーでも共通認識を持ち約束事に則ってレフェリングをすることが私にも大事なことであると感じました。</p>	

○6 月 9 日（土）大会 1 日目

《担当した試合》

時間	A ブロック 1 回戦 第 3 試合（12:30～）	
対戦カード	昌平高等学校（埼玉） 73 — 77 鶴沼高等学校（神奈川）	
担当審判	CC. 渡邊 整 氏（栃木）S 級	U1. 阿久沢 尚夫 氏（群馬）B 級
内容	<p>プレゲームカンファレンスでは、メカニクスの確認（それぞれのプライマリーエリアやアングルの確認、ベーシックにボールサイドツウを作ること等）、ゲームクロックとショットクロックの管理、判定に対しての訂正（特にアウトオブバウンズについて）、クルー内での協力について話し合い、共通認識をしました。</p> <p>試合の内容は、前半は鶴沼のシュートが入り、優勢であったが、昌平も積極的にゴールへ向かい、食らいついて 42-32 で鶴沼がリードしていたが、後半は点を取り合う激しい攻防が続き、昌平のプレッシャーディフェンスで同点まで追いつき延長戦へ。鶴沼のリバウンドでフリースローが続き、逃げ切る形となる、非常に拮抗していた良いゲームであった。</p> <p>《講評》古畑 香子 氏（茨城）</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・アングルがとれている時に積極性をもって判定をする ・ゲームが競ってきた時にも常に冷静さを保ち続け、変わらない判定をする ・コールしたものが自分のプライマリーであったかどうかを考える ・センターでのチェックインが遅いため、何かが起こっても原因が分からない →自分のエリアにプレイヤーやボールがあれば、その段階でチェックインをする
--	---

○6月10日(日) 大会2日目「グループミーティング」

担当試合	Aブロック 3回戦 第2試合 (11:00～)		
	山雲学園高等学校(東京) 58—52 アレセシア湘南高等学校(神奈川)		
担当審判	CC. 平出 剛 氏 (栃木)	U1. 中嶽 希美子 氏(千葉)	U2. 久保 あしみ氏 (千葉)
内容	<p>審判主任：小坂井 郁子 氏 (神奈川)</p> <p>ミーティングメンバー：加藤 暁生 氏 (東京)、坂 美佑紀 氏 (茨城)、 赤羽 沙耶 氏 (栃木)、藤林 比登美 氏 (埼玉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーンディフェンスの場合のローテーションについて アレセシア湘南はゾーンディフェンスをしていた。エリア1～3ボールを回していることが多く、リードがノッキングしてしまう場面があった。ローテーションをするか迷う場面であるが、その中でもトライを試してみることも大切であるという話があがりました。 ・ベンチ対応について タイムアウト中やファウルをコールしたときに、ベンチからアピールがあった。その対応の仕方に関して、まずはクルー同士が助け合うことが大切である。同情や反論はせず、言葉をかけたり、あるいはかけないことも一つの対応であるという話があがった。また、対応の仕方に答えはないが、経験をすることで、どのように対応すべきかが分かってくるのではないかと平出氏よりお話いただきました。 ・プライマリーアングルについて ある現象が起こった際に、プライマリーからでは見えづらいケースがあった。それに対して、アングルを持っているレフリーが判定をすることが大切である。「近いけど、見えない。遠いけど見える＝アングル」であることがミーティングをする中でケースを踏まえて勉強させていただきました。 		

3. 感想

今回、初めて関東大会女子派遣をいただき、緊張感を持ち参加させていただきました。

担当させていただいた試合は、非常に激戦で、競っているゲームでいかに冷静さを保ち、判定をし続けるかということの難しさを体感し、自分自身にはまだまだ足りないものが山ほどあると痛切に感じました。また今回3P0でのレフェリングということもあり、3人の動き次第で見える世界が違う。メカニクスの理解はさらに深めていかなければいけないこと、そしてそれらを踏まえながら判定力を身につけ、感性を磨くということが今後の課題であるということがさらに明確になりました。

それから、関東の審判員の方々のレフェリングを沢山拝見させていただき、非常に勉強になったとともに、良い刺激を受けることもできました。この経験を踏まえ、さらにステップアップできるよう精進してまいります。

最後に、今大会で開催県となりました、神奈川県バスケットボール協会の方々には大変お世話になり、深く感謝致します。また、今大会の派遣をしてくださりました平原審判長をはじめ、ご指導いただいております東京都バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げます。